

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 松濤会	代表者	松本定信	法人・ 事業所 の特徴	市役所や銀座通り等、大通りに面した中心街に位置しており、地域社会との交流や接点を持ちながら、生活を維持できるよう支援しています。「お望みの時に、お望みの介護を」を目指し、通いを中心に、宿泊や訪問を柔軟に組み合わせて、馴染みの職員が馴染みの場所で、通い・宿泊サービスを提供し、訪問も馴染みの職員が対応しますので利用者様、ご家族様も安心していただけます。 また、特別養護老人ホーム「助川サテライト」を併設しており、助川サテライト入居者様、ご家族様との交流も多く、家庭的な雰囲気が楽しめます。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護事業所 銀砂台 「鹿島町クラブ」	管理者	鈴木 菜子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1名	1名	1名					9名		12名

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	日頃行っている支援内容が適切かどうか検証を重ねる。月1回のモニタリングを活用し個々の必要に応じた支援を行う。	定例のミーティングでモニタリングを実施し、情報共有を行うと共に問題提起を行った。短期間で状況が変化することが多く、その都度話し合いを行い支援内容の変更を行った。	多機能性のある柔軟な支援とは具体的にどんな事を考えてみてください。	既存のサービスに捉われず柔軟な支援やサービスの多様化に取り組む。 定例のミーティングで改善計画の進捗状況を確認する。
B. 事業所のしつらえ・環境	前回の改善計画が達成できなかったことから、今年度もホームページを活用し情報を発信する。	法人の動画サイトで事業所の様子を紹介した。	ホームページは、重要な発信源だと思います。	居心地よく安全に過ごせるよう、感染対策を行いながら、季節感を取り入れた飾り付けや作品の展示を行う。

C. 事業所と地域のかかわり	今年度も感染症対策をしっかりと取りながら、職員が町内会に参加するなどして地域の方々との交流を続ける。	町内会総会に参加し、顔の見える関係を続けている。地域ぐるみの関りはなかったが、近所の方を見かけた時には挨拶を交わし、交流を図った。	コロナの状況は先が分からない。出来る事をやるしかないのではないかと。先を急ぐと、逆に動きがとれなくなるので、注意してほしい。	事業所が地域資源として地域住民から頼られるよう、近隣の方との挨拶や会話を大切にして、今後も信頼関係の構築に努める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域資源を把握して、利用者様の必要に応じた情報提供や支援を行う。	健康診断やコロナワクチン接種の付き添いを行った。また、介護保険サービス以外の大掃除や、ゴミの搬出などをシルバー人材センターに依頼した。	地域資源の把握については本人の必要な支援の中から探ってはどうか。	馴染みの場所への外出や買い物支援など感染対策を図りながらも、可能な限り地域とのつながりを意識した取組みを行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	書面会議の際は、一般の職員も推進委員への説明や聞き取りに参加する。	コロナ感染が拡大したことから、一般職員の参加を控えた。	事業所としてどういう役割を担っているかを、しっかりと分かっていけば良いのではないかと。地域包括とは違う役割がある。この時期に職員でもう一度話し合ってみてはどうか。	職員一人一人が意見を出し合える機会を多く作る。
F. 事業所の防災・災害対策	ホームページに防災計画を掲載する。また、ブログを活用し防災訓練の実施状況を発信する。	年間計画のみになってしまった。防災訓練には、送迎車両の操作方法なども取り入れ、緊急時の体制強化に取り組んだが、ブログへの掲載がなかった。	最近、病院での火災のニュースがあった。入り口を塞がれた場合の避難経路は考えてあるか。出て行けない場合を想定した対策も必要。	災害に合わせた避難対策を再度見直し、事業継続計画を基に、災害時どのような支援が必要になるか個別のニーズを把握する。